

口腔機能検査の果たす役割

平野 浩彦

東京都健康長寿医療センター

病 院 歯科口腔外科部長

研究所 自立促進と精神保健研究チーム研究部長



高齢期の「食」を支える方策として「8020 運動」が 1989 年に開始されました。この動きはダイナミックな国民運動論にまで発展し、2016 年には達成者が 5 割を超え、口腔機能および摂食嚥下機能が飛躍的に改善する基盤を形成しました。こういったなか、う蝕、歯周病によって侵される歯および咬合などへの形態学的アプローチに加え、口腔の機能管理へのアプローチが求められる時代となり、厚生労働省の方針（歯科治療の需要の将来予想）にもこの歯科医療ニーズの変化が明記されました。さらに一連の状況を踏まえ、口腔機能の低下の恐れがある高齢者のスクリーニングを目的とした、後期高齢者歯科健診が 2014 年から事業化がなされました。さらに 2018 年度診療報酬改定において、医療保険病名として「口腔機能低下症」が採用され、その診断を目途とした、複数の口腔機能評価に関する検査が新規導入されました。導入にあたり学術的に口腔機能低下に関する検討（水口ら, 2016. Minakuchi et al., 2018）が報告されています。また、口腔機能低下症および摂食嚥下機能障害を包含した可視化した概念として「オーラルフレイル」が、日本オリジナルの概念として考案されました。この概念は、学術的な知見（Watanabe et al., 2015. Tanaka et al., 2018）も踏まえ、2019 年 5 月に日本歯科医師会から「歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル」などが出されています。

このように「口腔の機能」が注目され、日本初のオーラルフレイル概念の考案、口腔機能低下症の医療保険病名採用による医療環境整備などが急速に進んでいます。当日は、厚生労働省が示す健康寿命延伸プランへの寄与も含め、口腔機能検査の果たす役割について参加される皆様と考える機会となれば幸いです。

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士

平成2年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医

平成3年 国立東京第二病院 口腔外科 研修医

平成4年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事、

平成14年 同センター医長

(東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更)

平成21年 東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長

平成28年 同センター病院 歯科口腔外科 部長

平成31年 同センター研究所 口腔保健と栄養研究テーマ研究部長(兼任)

令和4年～ 現職

日本老年学会 理事

日本サルコペニア・フレイル学会 理事

日本老年歯科医学会 理事・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師

日本口腔検査学会 理事

日本老年医学会 代議員

日本大学 客員教授・東京歯科大学 非常勤講師・昭和大学歯学部 非常勤講師